

令和5年度

事務事業点検評価結果報告書
(令和5年度実施事業)

令和6年5月

中津川市教育委員会

はじめに

中津川市は、平成27年4月にリニア時代を創る市民像を「学び、活かす市民」として、総合的な教育の理念や方向性を示す「中津川市教育大綱」を策定しました。

教育委員会では「教育大綱」の実現に向けた施策を計画的に実施・推進するための指針として、同年6月に3期12年を計画期間とする「中津川市教育振興基本計画（よりよいひとりだち中津川ビジョン）」を策定しました。

令和5年4月に本計画の3期目となる「後期計画」を策定し、子供たちの乳幼児期から高等学校を卒業するまでの「育ち」に関わる教育施策や大人自らが参加でき学べる生涯学習・文化スポーツ事業などの着実な推進に取り組んでいます。

本書では、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和5年度に教育委員会が実施した主要な事業について、学識経験を有する方などで構成する評価委員のご意見をいただきながら点検評価を行い、今後の事業方針等を検討した結果を報告します。

また、この点検評価は、前述した教育振興基本計画の進捗管理を兼ねており、評価結果を次年度以降の施策の推進や改善に反映することで、より着実な計画の実現に役立てていきたいと考えています。

今後とも市議会をはじめ、市民の皆様のご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年5月
中津川市教育委員会

1 事務事業点検評価について

(1) 教育委員会点検評価制度の導入経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成19年6月に公布され、新たに法第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

(2) 教育に関する事務の管理、執行状況の点検及び評価の実施方針

中津川市教育委員会では、法の一部改正を受けて、次のような方針にもとづき、点検及び評価を実施することとしました。

点検評価の実施方法

① 評価対象事業

中津川市教育委員会が令和5年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業の中から主要なものを抽出し重点的に評価を実施します。

《令和5年度評価対象事業》

シートNo.	事業名	課名
1	さらさ相談事業	幼児教育課
2	キャリアカウンセラー設置支援事業	阿木高等学校
3	中山道落合宿本陣整備事業	文化振興課
4	図書館資料管理事業：配本事業	図書館

② 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業の自己評価を実施します。

③ 委員会評価

中津川市教育評価委員会において評価対象事業について意見をいただきます。

④ 最終評価

教育委員会が、一次評価及び委員会評価の結果をふまえ最終評価を実施し報告書を取りまとめ、議会へ提出するとともに公表を行います。

⑤評価結果の活用

教育委員会は、点検及び評価の結果を、次年度以降の教育目標や基本方針等の策定、その他事務事業の改善等に活用します。

教育評価委員会

①教育評価委員会の設置

中津川市教育委員会点検評価実施要領の規定に基づき、5名による教育評価委員会を設置します。教育評価委員の任期は1年です。

②教育評価委員会の構成

役職名	氏名	公職等
委員	須栗大	大学教授
委員	朝日美智子	地域ミニコミ誌編集長
委員	大瀧國嘉	中津川市校長会代表
委員	早川貴将	中津川市PTA連合会副会長
委員	長瀬啓志	中津川市保育園保護者会連合会長

点検評価の評定基準

①一次評価

評価対象事業について成果、反省点、課題、問題点、改善点等の観点から評価を行います。

②委員会評価

評価委員会を開催し、①の結果をふまえ、対象事業について審議し意見をいただき、それをもって委員会評価とします。

③最終評価

①と②の結果をふまえ、下記により方向性を示したうえで評価を行います。

方向性の判断	
継続	廃止

2 令和5年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

令和5年4月～令和5年12月 ※教育委員会会議の議案番号は、暦年で番号を付与しています。

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第5回	議第17号	令和5年4月19日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第18号	令和5年4月19日 同日 原案承認	令和5年度岐阜県教科用図書東濃採択地区協議会の設置等について
	議第19号	令和5年4月19日 同日 原案承認	中津川市認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第20号	令和5年4月19日 同日 原案承認	中津川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額等を定める条例施行規則の一部改正について
	議第21号	令和5年4月19日 同日 原案承認	中津川市保育の必要性の認定に関する条例施行規則の一部改正について
	議第22号	令和5年4月19日 同日 原案承認	中津川市家庭的保育事業等の認可手続きに関する規則の一部改正について
第6回	報題1号	令和5年5月24日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議題23号	令和5年5月24日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議題24号	令和5年5月24日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会委員の委嘱等について
	議題25号	令和5年5月24日 同日 原案承認	中津川市B&G海洋センター運営協議会委員の委嘱等について
	議題26号	令和5年5月24日 同日 原案承認	中津川市立図書館規則の一部改正について
	議題27号	令和5年5月24日 同日 原案承認	令和4年度中津川市教育委員会の事務事業点検結果報告書について
	議題28号	令和5年5月24日 同日 原案承認	令和5年度中津川市選奨生の決定について
	議題29号	令和5年5月24日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第7回	報第2号	令和5年6月21日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議題30号	令和5年6月21日 同日 原案承認	令和6年度使用中津川市立阿木高等学校用教科用図書の採択について
	議題31号	令和5年6月21日 同日 原案承認	令和6年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について
第8回	法第3号	令和5年7月26日 同日 原案承認	中津川市小学校及び中学校の設置等に関する条例等の一部を改正する条例の一部の施行期日を定める規則の制定について
	法第4号	令和5年7月26日 同日 原案承認	中津川市学校給食共同調理場設置条例等の一部を改正する条例の一部の施行期日を定める規則の制定について
	議題32号	令和5年7月26日 同日 原案承認	令和6年度に使用する小学校及び中学校用教科用図書の採択について
第9回	法第5号	令和5年8月16日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	法第6号	令和5年8月16日 同日 原案承認	中津川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者の確認等及び業務管理体制に係る届出に関する規則の一

			部改正について
	議題 33 号	令和 5 年 8 月 16 日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の任命について
	議題 34 号	令和 5 年 8 月 16 日 同日 原案承認	中津川市文化財の指定について
	議題 35 号	令和 5 年 8 月 16 日 同日 原案承認	中津川市市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第 10 回	法第 7 号	令和 5 年 9 月 20 日 同日 原案承認	中津川市遠距離通所児通所費支給規則の廃止について
第 11 回	議第 36 号	令和 5 年 10 月 18 日 同日 原案承認	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について
第 12 回	報第 8 号	令和 5 年 11 月 14 日 同日 原案承認	中津川市保育所の設置等に関する条例施行規則及び中津川市認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第 37 号	令和 5 年 11 月 14 日 同日 原案承認	中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について
	議第 38 号	令和 5 年 11 月 14 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第 39 号	令和 5 年 11 月 14 日 同日 原案承認	令和 5 年度中津川市選奨生の決定について
第 13 回	報第 9 号	令和 5 年 12 月 13 日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会の結果報告について
	議第 40 号	令和 5 年 12 月 13 日 同日 原案承認	令和 6 年度中津川市教職員定期人事異動方針について

令和 6 年 1 月～3 月

付 議 委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件 名
第 1 回	議第 1 号	令和 6 年 1 月 24 日 同日 原案承認	令和 6 年度中津川市教育委員会主要事業について
	議第 2 号	令和 6 年 1 月 24 日 同日 原案承認	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について
第 2 回	議第 3 号	令和 6 年 2 月 14 日 同日 原案承認	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について
	議第 4 号	令和 6 年 2 月 14 日 同日 原案承認	中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について
	議第 5 号	令和 6 年 2 月 14 日 同日 原案承認	中津川市文化スポーツ施設等使用料等徴収条例施行規則の一部改正について
	議第 6 号	令和 6 年 2 月 14 日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第 3 回	報第 1 号	令和 6 年 3 月 5 日 同日 原案承認	中津川市認定こども園の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第 7 号	令和 6 年 3 月 5 日 同日 原案承認	令和 6 年度県費負担教職員の任免等の内申について
第 4 回	議第 8 号	令和 6 年 3 月 28 日 同日 原案承認	令和 6 年度市費負担職員の任免について
	議第 9 号	令和 6 年 3 月 28 日 同日 原案承認	中津川市スポーツ推進委員の委嘱について
	議第 10 号	令和 6 年 3 月 28 日 同日 原案承認	中津川市学校施設等適正配置計画の承認について
	議第 11 号	令和 6 年 3 月 28 日 同日 原案承認	令和 6 年度中津川市教育委員会の方針と重点について

(2) 移動教育委員会の開催状況

移動教育委員会を開催し、教育委員と保護者が意見を交換することで、教育現場に保護者の意見を反映させます。

令和元年度まで6地区で開催していましたが、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により中止とし、令和5年度は昨年度に引き続き教育ICT環境を活用した動画配信方式での開催としました。

発達支援センターにおいては、感染対策を徹底して2回開催しました。

地区等	実施日
発達支援センター つくしんぼ	令和5年11月2日
発達支援センター どんぐり	令和5年11月9日

(3) 総合教育会議の開催状況

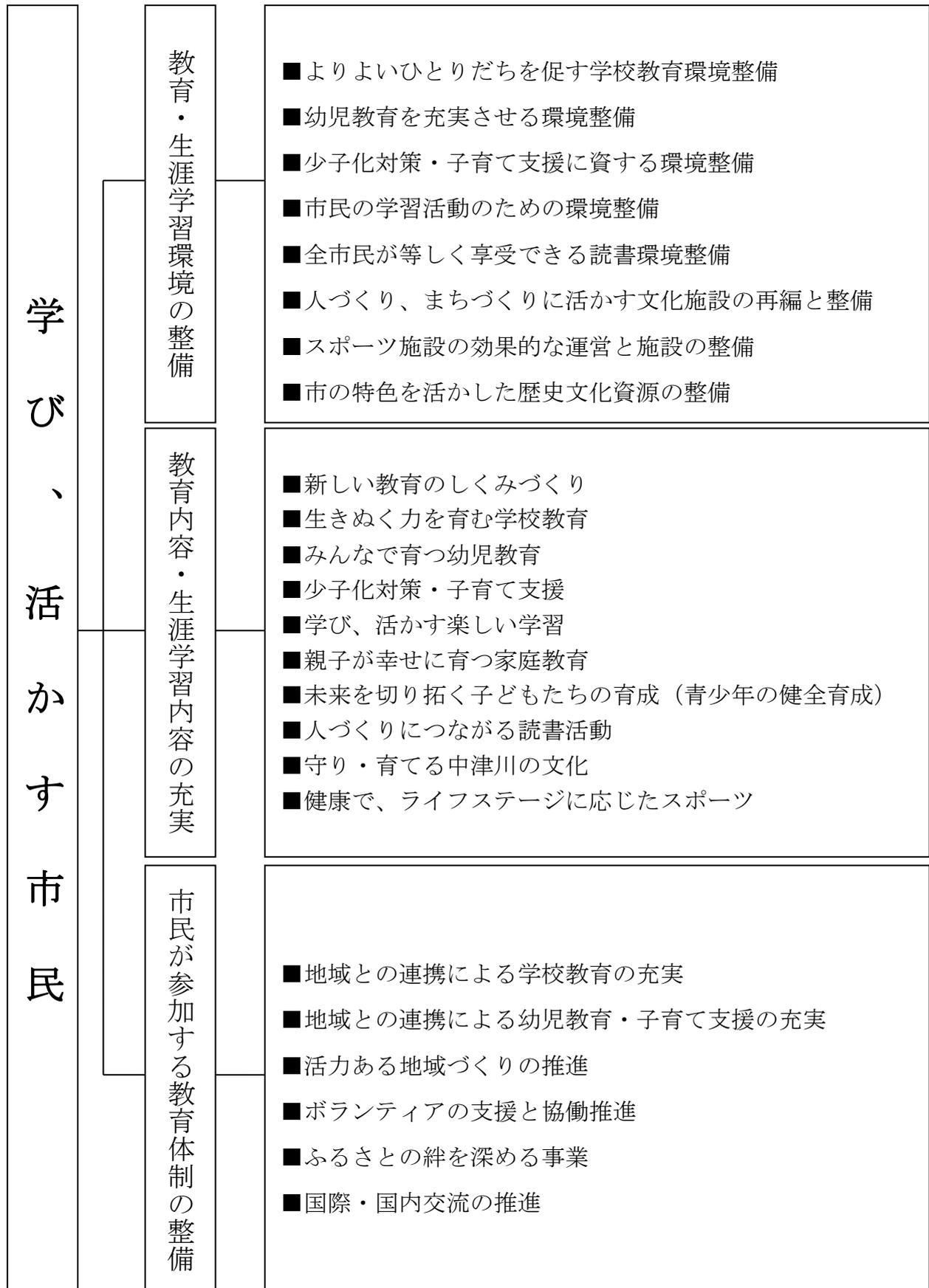
市長と、教育委員会で構成され、教育行政の大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置について、協議・調整を行います。

実施日	報告内容
令和5年12月15日	中津川市教育振興基本計画（後期 R5～R8年度）について
	協議内容
	学校施設等定期性配置計画（案）について
	部活動の地域移行について

(4) その他の活動状況

市長との懇談会、教育委員会協議会、学校や園の教育長訪問、各種委員会、卒業式などに参加しました。

3 中津川市教育振興基本計画の施策体系図



事業名	さらさ相談事業（巡回相談支援事業）	担当課	幼児教育課
------------	-------------------	------------	-------

概要説明

この事業は

保育士・教員に対して、支援を必要とする子どもへの関わり方の提案と、障がいの早期発見・早期対応のための助言等を行うこと

を目的とし

- ・園や学校から支援が必要とされる園児・児童についての相談依頼を受ける。
- ・相談員が園・学校を訪問する。
- ・園児・児童の集団の中での様子を見て、発達の様子を把握する。
- ・保育士・教員に対し、園児・児童の保育や支援の方法について、具体的に相談
 - ・助言を行う。
- ・必要に応じて、相談の継続や保護者面談、発達検査につなぐ。

計画で進めました。

令和5年度は

・実績

【できたこと（成果）】

- ・今年度より訪問相談員を1名増の2名とし、依頼をすべて受ける体制を整えた。
- ・10月末までに、63件の訪問相談を行った。
（保育園・幼稚園・こども園 46件、小学校17件）

【できなかったこと（課題）】

- ・園児・児童の様子に応じて、市主催の「ことば・運動発達の相談会」を紹介する
場合があるが、年度内の予約がいっぱいで、案内ができないことがあった。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）**◆良かったこと（成果）**

- ・相談員の体制が整い、園・学校からの依頼を全て受けることができ、さらに依頼から訪問までの期間を短縮することができた。
- ・訪問相談後、13人が心理士との発達相談につながり、そのうち9人が療育施設への通所につながった。

◆課題・問題

- ・相談員は、個々に応じた適切な助言を行うために、専門的な知識と経験が必要であり、スキルアップのための研修の場が必要である。

◆今後どうしたいか

- ・国の巡回相談事業による研修などを受講し、相談員の資質向上を図りたい。
- ・令和6年度は「ことばの相談会」の回数を増やす予定。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・近年、支援を必要とする子どもが増加しており、保育士・教員が支援の方法について苦慮するケースが多くなっている。
- ・この事業についてのアンケートでは、「園では抱えきれず、訪問していただきありがたい」「話を聞いてもらい気持ち楽になった」との声をいただいている。
- ・専門的な立場からの助言により、保育士・教員が新たな関わりを検討・実践し、それが子どもが安心して園・学校生活を送ることにつながっている。

評価委員会審議内容**◆事業についての質問**

本年度は書面により評価をしていただきました。

◆良いところ

- ・不安を抱える保護者、教員にとっても相談できる場があるということは安心につながる。
- ・様々な発達障害やグレーゾーンの子どもの数が増えている現在、保育士、教員や保護者の相談に専門家が応じ、適切なアセスメントやアドバイスをすることは有効。
- ・子どもにとっての支援をどう行っていくと良いのかを、助言いただくことで適切な支援につながっている。
- ・各問題点に耳を傾ける相談員が1名増えたこと。

◆課題、問題点

- ・市主催の「言葉の相談会」など、紹介先の受け皿が不足しているのは問題。紹介された親子が全員受けられるようにしなければ巡回相談支援の意味がないと思う。
- ・これから対象となる生徒児童がいかに早くこの事業を認識し、スムーズに相談までたどり着ける期間についても調査してみたらどうか。
- ・保護者への周知が大事なのか教員への周知が効果的なのか調査してみるのも大事ではないか。
- ・相談員はどこまでスキルアップしていくのか具体的な目標値がほしい。
- ・今の相談員の人数で本当に良いのか（適当なのか）状況に応じて適正な人数を確保してほしい。

◆意見

- ・研修を受けた職員がしばらくは他部署に移らなくても良い工夫をしてはどうか。
- ・少子化にも関わらず、支援を必要とする子どもは年々増えているので、相談員の専門性を高め、受け皿を拡充してさらに発展させるべきだと思う。
- ・相談員の資質向上は重要。

最終評価

方向性の判断	
	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

少子化が進む半面、支援が必要な園児や児童が増えている。対応する保育士、教師のとまどいや保護者の不安を抑えることは子育て支援にあたると思う。専門的知識のある相談員の人数も整っているようで、保育士・教師・親の心の拠り所として研鑽を積んでいただき事業を継続して欲しい。

事業名	キャリアカウンセラー設置支援事業	担当課	阿木高等学校
------------	------------------	------------	--------

概要説明

この事業は

キャリアカウンセリングにより、生徒が自己理解を深め、長い将来において社会人として尊厳ある生活を送れるような進路選択を、生徒や保護者ができるように導くこと

を目的とし

- ・外部委託したキャリアコンサルタントによるカウンセリングを受けることにより、生徒の自己理解を深め、自分の適性に合った進路選択ができ、就職率及び定着率の向上を図る。
- ・卒業年次生に面接・マナー指導を集中して行うことにより、自信をもって就職試験に向かうことができるようにする。
- ・外部機関とのコーディネートにより、就職先の新規開拓や企業訪問を行う。
- ・卒業生の就職先へ訪問し、アフターフォローを行う。
- ・教職員の資質向上を目指したキャリアカウンセリング研修を行う。

計画で進めました。

令和5年度は

・実績

【できたこと】

- ・生徒に計188回のカウンセリングを行い、自己理解や進路選択の導きができた。
- ・8月後半から3人の講師を招いて、計36時間の集中面接指導を行うことで生徒の進路意識に変化が生まれ、進路に向けて前向きな姿勢を示すようになった。
- ・外部のキャリアコンサルタントにより、1年生には社会における自己理解を深める講話と一般職業適性検査を、2年生には進路意識付けの講話を行い、生徒が進路を意識するきっかけづくりとした。
- ・卒業生の就職先には、2年生のインターンシップ期間を主に利用して訪問した。
- ・教職員対象に事例研究の研修を実施。

【できなかったこと】

- ・保護者対象のカウンセリングは、募集したが希望者がなかった。
- ・就職先の新規開拓や企業訪問を実施することができなかった。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ・生徒の特性に合った進路選択の一助として成果を上げている。
- ・本事業を始めてから、各年度末の就職内定率は上昇・安定し、早期離職数は減少している。

◆課題・問題

- ・自己理解が曖昧なまま就職する生徒をゼロにすることはできず、早期離職してしまう者がいる。

◆今後どうしたいか

- ・自己理解が困難な生徒の入学が年々増加しており、生徒の実状に合わせ1年次から個別支援を行いたい。
- ・長い将来において社会人として尊厳ある生活を送れるような進路選択に導くため、今後も生徒の特性や社会情勢に合わせた内容に見直しながら継続したい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・何らかの困りごとを抱えながら入学してきた生徒がほとんどという本校の状況のなかで、自己理解の深化から始め、最終的に自分に適した進路実現に向けて生徒を成長させていく過程において、キャリア教育の支援はなくてはならないものである。
- ・外部のキャリアコンサルタントの指導や見方は、教員の指導力への影響も大きく、生徒にとっても、自己理解・自己実現を進めるうえで、なくてはならない存在となっている。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

本年度は書面により評価をしていただきました。

◆良いところ

- ・年間を通じてキャリアカウンセラーが学校と連携した取り組みをすることにより、効果的な取り組みができている。
- ・高校生の就職は学校がハローワークの役割を果たす特殊性があり、教員の影響力が大きい。そこにキャリアコンサルタントが入ることで生徒の職業観や可能性が広がる。
- ・困り感を持った生徒が、安心して将来をみつめ生活を送れることは、よいことであり、継続するとよい。
- ・一人ひとりの生徒に向き合い行っているところ。
- ・色々な視点をもつ方から話を聞ける事はいい事。

◆課題、問題点

- ・成果を数値として表現する必要がある。卒業後の調査等を実施し、変化を見せてほしい。保護者に対してはカウンセラーの指導というより、就職サポート説明会などとして集団で行ったほうが参加しやすいのではないか。
- ・どこの学校でも早期離職する生徒はいるので、そういった卒業生が学校に相談にいくことができる体制を整えると良いと思う。
- ・就職先、企業訪問の新規開拓はとても大変だと思うが、生徒のためにも引き続き頑張ってもらいたい。一でも進めば大きく次に繋がると思う。

◆意見

- ・阿木高校だけでなく中学校等とのキャリアカウンセラーを共通で活用している場合、進路先への情報提供など継続できると手厚いサポートができるのではないか。
- ・キャリアコンサルタントは専門家といっても、生徒の学力や授業等学校生活の様子は分からない。教員と密に連携し情報共有して指導に当たると良いと思う。
- ・教員の指導力向上につながる研修のようなものを導入すると良いのではないか。
- ・働き方が大きく変化していく時、多くの情報を生徒に提供していただきたい。
- ・高校1年生の個別支援を行うべきと考えます。

最終評価

方向性の判断	
	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

担任や学校で出会っている教員以外の先入観を持っていない、専門性の高い外部からの指導は、新たな自分を見出す良いきっかけとなることがある。

選択肢が広がることで好きな仕事ややりがいのある仕事に出会える可能性が高くなる。一番の身近な理解者である保護者にも前向きに取り組んでもらえるように工夫をしてもらいたい。

事業名	文化財保護事業：中山道落合宿本陣整備事業	担当課	文化振興課
------------	----------------------	------------	-------

概要説明

この事業は

- ・本陣建築が現存する県内唯一の史跡、中山道落合宿本陣を整備によって保全するとともに、魅力を向上させ、教育・観光・まちづくり等に資する施設とすること

を目的とし

- ・平成26年度の公有化を機に、落合宿本陣の整備に向けた動きが始まった。
- ・当面の活用として平成29年度から落合宿本陣の主屋と庭園の一般公開が開始
- ・将来の整備着手に向け、現在の中山道落合宿本陣整備計画策定委員会が令和4年度に設置された。
- ・国史跡の整備要件となる保存活用計画・整備基本計画・基本設計・実施設計の内、今年度は、整備基本計画策定に向けた予備調査を実施し、保存活用計画を策定する

計画で進めました。

令和5年度は

・実績

【できたこと】

- (1) 史跡内総合状況調査
 - ・予算3,113千円、6月から11月の期間で実施し、来年度からの整備基本計画策定に向けた基礎情報を把握した。
- (2) 保存活用計画本文の執筆
 - ・文化振興課の分担執筆により文化財コンサルタントへの執筆委託料を通常の3分の1程度の2,827千円に抑えるとともに、より深く郷土の歴史に言及する内容とした。
- (3) 保存活用計画策定に向けた委員会（中山道落合宿本陣整備計画策定委員会）
 - ・6月・12月・3月に開催した合計3回の委員会には地元代表者3名が委員として出席、地域の意見をより多く保存活用計画に取り入れた。
- (4) 郷土学習題材としての活用
 - ・落合小中学校生徒の見学、落合小学校4年生による「世界に1つの落合大好きっ子写真展」の開催とガイド体験、落合中学校開催の“わたしの主張2023”でのアトラクション発表「すごいぞ！落合宿本陣」など、郷土学習題材として活用された。
- (5) クラウドファンディング
 - ・ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを行い、将来の整備に向けた資金として約4,380万円の支援を得た。

【できなかったこと（課題）】

- (1) 一般公開時来客数の回復
 - ・コロナ禍前は年間見学者3000人程度であったが、安全確認のため6月から8月の3か月間公開を休止した影響もあり、年間見学者数は2000人に及ばなかった。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）**◆良かったこと（成果）**

- ・平成29年度以降、休止していた中山道落合宿本陣整備基本計画策定委員会を再開して2年度目であったが、令和10年度以降に予定する整備着手に向けて着実に事業を進めることができた。
- ・本格整備未着手の段階ではあるが、地元小中学校生徒の郷土学習をはじめ、ソフト面での活用や世間での認知が進んでいるといえる。

◆課題・問題

- ・主屋・土蔵・離れといった主要な建物は、それぞれ程度の違いこそあれ経年劣化が進んでおり、整備着手に至るまでの間、いかに保全するかが課題となっている。

◆今後どうしたいか

- ・整備着手に至るまでの間、劣化の進んだ建物に重大なき損が生じることのないように適切な処置を講じたい。
- ・落合宿本陣の活用とまちづくりや教育が積極的に関わるよい機運が高まっているが、整備着手後の公開休止期間に、こうした機運にかげりが生じないよう、現場見学会や最新成果報告会、出前授業などの開催も考えていきたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・落合宿本陣は、国史跡中山道に関わる重要な交通遺跡であるとともに、地域においてもシンボリックな史跡となっている。既に地域や学校の取り組みにおいても活用が進んでいるが、将来的な整備に向けて着実に事業を進めることで、これを保全、学習・観光・まちづくりの拠点とし、長く後世に受け継がれる場所にしていきたい。

評価委員会審議内容**◆事業についての質問**

本年度は書面により評価をしていただきました。

◆良いところ

- ・整備の準備期間中の取組みとしては様々な活動が実施できている。
- ・教育の現場の活用などソフトとしての活用が検討され実施されている。
- ・新たに作ることができないものこそ、重要なリソース。リニア開通を見据えて早急に整備してほしい。地元の小中学生の学習対象になっており、教育資源としてもより活用してもらいたい。
- ・小中学校としてふるさと教育に繋がっており、大変意味のある事業であると考えます。

◆課題、問題点

- ・報告にもあるように、整備中だからこそ見ることが出来る魅力の発信や見せる整備については具体的に検討し、仕組みを作っていないと結局うまくいかなくなりそうである。しっかり整備期間中の目標来場者数等も立ててみてはどうだろうか。
- ・裏の雑草が大変多く、ボランティアで草刈りを実施できる体制なども検討してみてください。裏から見ることで魅力がアップすると思います。
- ・遅きに失した感がある。市内外の人から、もう少し早く整備すべきだったという意見を頻繁に聞く。スピード感がほしい。

◆意見

- ・ボランティアガイドがイベント等に尽力しているので、行政と協働で、学習・観光・まちづくりへの活用をさらに進めてほしい。
- ・クラウドファンディングでしっかり結果が出ているので、一般来客数も頑張って結果を出していただきたい。市民への周知は大変だと思いますが、各地域のコミュニティや学校を通じ、まずは地域の方に知ってもらうのが一番だと思います。いい事を行っている事が知ってもらえない事が一番寂しい。良い中津川ができるよう、これからも頑張ってください。
- ・長く受け継がれる場所にするために、多くの方々へのアピールポイントや発信が必要だと考えます。

最終評価

方向性の判断	
継続	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

中津川市の重要史跡としての認識を高めることが大切。準備修理中の今しか見ることが出来ない楽しみをたくさんアピールして、歴史だけでなく建築や生活、人との関わりなどの多方面から中山道落合宿本陣を掘り起こしてほしいと思う。

歴史的な価値があるものを保存するということに意味がある。対外的なアピールという意味でも良い事業だと思う。

事業名	図書館資料管理事業：配本事業	担当課	図書館
------------	----------------	------------	-----

概要説明

この事業は

- ・市民の暮らしに必要とする情報を提供するため、市内各図書館関連施設において図書を整え、安定的に利用できること
- ・市内のどの地域においても入手したい図書や情報を手に入れられる環境整備等の仕組みを継続していくこと

を目的とし

中央館から各施設へ配本車による図書の配本

- ①幼保こども園は要望に沿った絵本を定期的に配本
- ②小中学校は要望に沿った図書と授業で利用する学習用図書の配本
- ③済美図書館及び各公民館図書室・図書コーナーへの配本
- ④その他学童保育所、福祉施設、企業等に、要望に沿った図書の配本

計画で進めました。

令和5年度は

・実績（令和5年4月から10月まで）

【できたこと】

- ①各園〈要望に沿った絵本の随時配本や定期的に配本〉
 保育園：5園（市立3園、私立2園）
 幼稚園：6園（市立5園、私立1園）
 こども園：1園
- ②各小中学校〈調べ学習用図書や司書おすすめ本を要望に沿い配本〉
 小学校：全18校
 中学校：全12校
- ③各公民館〈分館、図書室、図書コーナーへの定期、不定期配本〉
 定期配本（毎週火・金曜日）
 不定期配本：57回
- ④その他〈学童、乳幼児学級、福祉施設、企業への配本〉
 学童：3か所
 乳幼児学級：2か所
 福祉施設：7か所
 企業：2か所

【できなかったこと】

- ・多くの学校で学習時期が重なることにより、対応できない場合があった。
- ・配本回数、冊数が増加したことにより、司書の業務量が増え対応までに時間を要する場合や対応できないことがあった。

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）**◆良かったこと（成果）**

- ・教育施設において、それぞれの施設で子どもたちが必要とする図書を概ね提供することができた。
- ・市内各地区の利用者へは、週2日の配本により、希望する図書を市内図書施設から取り寄せることができた。
- ・各公民館では、中央館等の図書を一定期間特別配置するなどして、市内全域の図書を手にとるための環境整備ができた。

◆課題・問題

- ・多くの学校で学習時期が重なることにより、同内容の配本要望の場合、対応できないことがある。
- ・各公民館等の要望を受け入れ続けた結果、事業当初に比べ配本回数や冊数は増加したが、配本のための選書等の業務量が増加し、対応しきれなくなっている。
(各公民館施設への配本実績：H24年度：1,800冊、R4年度5,410冊)

◆今後どうしたいか

- ・学校の現状と要望を把握することにより、本当に必要な図書の提供へつなげるため学校図書館司書会へ定期的に参加し、情報共有等していきたい。
- ・各公民館等において、配本内容の検討を行い、市内全体の要望に対応していきたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・配本事業により、市民の暮らしに必要な資料や情報を市内どの地域、施設等においても手に入れられる環境整備等の仕組みを継続することができた。

評価委員会審議内容**◆事業についての質問**

本年度は書面により評価をしていただきました。

◆良いところ

- ・地域において必要とされている図書などを司書の専門性を活かした配本ができています。
- ・ひと・まちテラスができたことで、恵北地域や阿木地区などの市民が疎外感を感じないようにするためにも有効だと思う。
- ・活字や読書離れが心配される中、こういった事業を積極的に行っていくことが大切であると考えます。実績もあり継続するとよいと思われまます。

◆課題、問題点

- ・ひと・まちテラスの開館により求められる機能が変化はしていないのか。また職員の業務量の増加等に対応する人員配置や業務の改善が必要である。
- ・持続可能な事業にしていくために今後どのようにしていくのか見当が必要。
- ・配本回数だけでなく各図書館での貸し出しや利用回数などのデータが必要ではないか。
- ・各公民館への配本冊数が非常に増えていて対応できないとされているのが心配。もう少し合理化できないのか。電子書籍の利用等は考えていないのか。

◆意見

- ・各学校からバスなどでひと・まちテラスに訪問してもらい返却は各地域の図書館で実施できることがわかるとよいのでは。
- ・ただ配本するだけでなく、一箱本棚の取組みや「押し本」キャンペーンなど、「読ませたい本」の紹介があると面白い。
- ・この事業は力を入れてほしい。今はスマホで何でも読めて、見られて、調べられる時代だからこそ、本を見る、読む事をしてほしい。小学校でも地域や保護者の方の読み聞かせを行っています。
- ・カリスマ図書館員、bookコンシェルジュをつくるのはどうか。
- ・人数を増加して配本のための選書等の業務量に対応してほしいです。
- ・教科書が変われば図書の本も変わると聞きました。すべてが完璧でなくても、引き続き力を入れていただきたい。
- ・学校図書館司書会でもっとアピールし、啓発することが重要であると考えます。

最終評価

方向性の判断	
継続	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

市内各図書館関連施設の利用が多くなったということは、周知が行き渡ったということで図書館の努力の成果であり大変良い評価ができる。ひとまちテラスの中央館を中心にネットワークで繋がる様子をどんどん実現していただきたい。

過去に評価を受けた事業の現状（平成20年度～令和5年度）

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
1	R4	1	岐阜サマー・サイエンス・スクール 【学校教育課】	コロナの影響によりR3年度同様のリモート開催としたことにより受講生が大幅増加、また、抗議の時間配分により集中度が向上した。 【評価内容】リモートにより、新たな層の受講生を獲得したが、対面で得られるものもあるため双方の良さを合わせた進展を期待する。	継続	【内容】オンライン開催となって3年目となり、参加者の増加に向けた広報活動を行う事ができた。また、講義の時間配分により集中度が向上した。 【実績】リモートで広く募集を募った事で227名の生徒の参加があった。リモートにより、新たな層の受講生を獲得したが、対面で得られるものもあるため、双方の良さを合わせた進展を期待する。	
2	R4	2	幼児教育・保育施設適正配置 計画策定事業～進捗状況と第 一次改訂版策定～ 【幼児教育課】	適正配置計画は実態に合わせて2年に1度は見直しを行うため、パブリックコメントを実施し第一次改訂版を作成する。 【評価内容】2年ごとの改定は、先を見越した上策である。	継続	・R5年4月に第一次改訂版を策定	
3	R4	3	市民大学講座開催事業 【中央公民館】	メインテーマを『中津川の魅力再発見！』とし、これからの中津川を考え、郷土への愛着を増幅する機会とするため、全5回の市民大学講座を実施した。 【評価内容】今後、開催地を広げ、リモート開催も含めた、市民が受講し易い形を模索するべきである。	継続	5年度もテーマを「中津川の魅力再発見！」とし、当市にゆかりのある方、または当市に関連する内容で講師を選定した。全5回開催。毎回会場とZOOM配信を併用、1回は福岡公民館をサテライト会場とした。関連資料の展示など、より深い学びの場を提供。	
4	R4	4	読書推進事業：絆スタート事業 【図書館】	子どもと保護者がともに読書に親しみきっかけづくりと家庭での読書の習慣化を図る。 【評価内容】ブックスタートを復活させるべき。家族全員が本に親しみ、家庭の中で本についての話ができる習慣づくりができると良い。	継続	・月1～2回、3ヶ月健診へ司書が訪問し絵本の紹介等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、健診方法も変更となったため、訪問は中止とし絵本の紹介資料のみ配布 ・令和6年度よりブックスタートが実施出来るよう予算要求中	
5	R3	1	保育士の勤務条件の適正化・ 保育士の確保事業 【幼児教育課】	保育士の休憩時間を確保。常雇保育士等の時間外勤務の見直し。幼保施設適正配置計画の策定により保育士不足を解消した。 【評価内容】保育士確保は、勤務条件の適正化にも結び付く。私立保育園との交流・連携を深め、園の運営に活かして欲しい。	継続	・前年度以上の選任主任及びフリーの保育士を配置することができた。	
6	R3	2	キャリア教育の充実事業 【阿木高等学校】	生徒の自己理解・進路意識を深めるためカウンセリング、面接・マナー指導、企業訪問等を実施した。 【評価内容】当事業は人生設計の第一歩となる。生徒の将来を重視し、一人ひとりに丁寧なカウンセリングを継続して実施して欲しい。	継続	令和5年度：297hr 卒業25人中、就職18人、進学5人、未定2人	
7	R3	3	国内姉妹都市交流事業 【生涯学習スポーツ課】	当市の小学6年生11名が対馬市へ訪問。対馬市の小学5、6年生20名が来訪した。小諸市・大磯町のイベントに参加し、観光産業をPRした。 【評価内容】対馬市とは蛭川だけでなく交流の輪を広げると良い。小諸市・大磯町とは交流の内容や方法を改善して継続して欲しい。	継続	新型コロナウイルス感染症のため、R2年度から中止となっている。R5は両市交流事業の課題や持続可能な交流の在り方を事務局レベルで協議を進めている。 R5.11月にはMAIKA祭2023に4年ぶりに対馬市を招待し、蛭川小5年生が作ったもち米の贈呈式を会場で行った。（上対馬振興部長兼交流協会長・市長代理上対馬振興部次長）小諸市・大磯町のイベントは新型コロナウイルス感染症のため規模縮小しての開催、または中止となったため実施していない。	
8	R3	4	鉱物博物館事業 【鉱物博物館】	自然科学に関する企画展示や体験教室を開催。学校の校外活動・学習相談や博物館友の会等のボランティア活動を支援した。 【評価内容】子供たちが鉱物を楽しめ、鉱物以外の分野ともコラボして、他の博物館を活性化するリーダーとなることを期待したい。	継続	R4企画展は私の展示室として「大地に眠る石の華」館独自として「まちで出会える世界の石」を開催した。また、3月から次の企画展を開催予定。10月末現在、教室・WS14回335人、出前講座2回47人、また26団体769人の団体学習を行った。	
9	R2	1	スクール・サポート・スタッ フ配置事業 【学校教育課】	県のスクールサポートスタッフ配置事業により25校に45名を配置し、コロナ感染症対策の人的体制を整備した。 【評価内容】教職員の働き方改革を進める上で、本来、先生達にやってほしいことに軸足を置いてもらい、労働時間を軽減するためサポートしていくことは、大変効果的である。	継続	【内容】スクールサポートスタッフ配置事業により、21校の40名を配置。前年に続き、コロナ対策、教員の事務支援のために整備した。 【実績】コロナ禍が明け、本来の教師の働き方改革にシフトできるように整備を進めている。	
10	R2	2	幼児教育・保育施設適正配置 計画作成事業 【幼児教育課】	園児の育ちに望ましい適切な集団規模を確保し、様々な保育ニーズに答え、安全・安心で快適な保育環境を確保する。 【評価内容】この計画を作成されたことが評価できるという意見に同意した。今まで幼保では発信しなかったため、この計画を作成・提示して目を向けてもらうことが大事であり、非常に価値のあることである。	継続	通番2に統合	
11	R2	3	中津川市青少年なやみごと電 話相談室事業 【生涯学習スポーツ課】	・18歳未満の主に小学生から高校生までの青少年を対象として、経験豊かな元教職員の相談員へ様々な悩みを相談できる電話相談窓口を開設している。 【評価内容】他市ではLINEを活用して相談数がかなり増えている。中学生以上はほとんど電話をしない現状もある。子供たちが相談しやすい環境の進化に期待したい。	継続	祝休日を除く月・水・金の15時～18時に相談員を配置して電話相談窓口を開設している。相談員：元教職員が対応。 市内の小学5年、中学1年に周知用の電話相談カードを配布した。 市内小中高、市内13公民館にポスターの配布と掲示を依頼した。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
12	R2	4	前田青邨等絵画収集事業 【文化振興課】	前田青邨の偉業を顕彰し次世代に伝えるため、画伯の貴重な作品を取得し展示していく。収集基金の積立額は、R2.10月で80,031,842円。作品数は、本画28点、下図24点、スケッチ57点。 【評価内容】 郷土に著名な作家がいることはすばらしい。長年に亘り積み立てをしながらか作品を収集していく活動・事業も貴重である。	継続	・遠山史料館で「青邨画伯の企画展」を開催。 会期：4/29～5/28、入館者：2,393人 ・青邨の本画2点を所有者から寄贈いただいた。 ・収集基金の積立額は、R6.3月で72,528,238円。作品数は、本画38点、下図25点、スケッチ57点。	
13	R1	1	中津川市の未来を担う人材育成事業 【学校教育課】	「命の教育」「生徒会サミット」「岐阜サマー・サイエンス・スクール」「すぐ技プロジェクト」を開催し、児童生徒に広く学び、交流する機会を提供する。 【評価内容】 どの事業も中津川市の特色ある教育の姿を表現できている。また、教育委員会以外の諸機関の協力を得て成り立っていて、今後も協力を得ながら継続してほしい。	継続	【内容】「岐阜サマー・サイエンス・スクール」（オンライン開催3年目）、「生徒会サミット」（集合型開催）、「すぐ技プロジェクト」を開催し、児童生徒に広く学び、交流する場を提供した。 【実績】3事業とも、活動終了時の児童生徒の評価が高かった。今後中津川市の特色ある教育の姿を表現する場として位置づけ、実施していきたい。	
14	R1	2	保育士等確保対策事業 【幼児教育課】	保育ニーズが増大する中、保育士等修学支援金制度や採用試験の受験資格の緩和等を実施し、安定した幼児教育・保育の提供体制を整える。 【評価内容】 支援制度は、5年勤務すれば中津川市で勤務してもらえるいい制度である。中学生から進学先をアピールしていることは計画性がある非常にいい。	継続	・R5年度保育士修学支援金新規貸付者4名 ・公立保育園で「保育の仕事見学会」を開催	
15	R1	3	苗木城跡整備事業 【文化振興課】	石垣・道・看板等の修復、史跡内の遺構調査や整備を行い、中津川市の宝として後世へ守り遺す。 【評価内容】 中津川市をアピールする重要な拠点の一つ。今後も来場者の増加が期待できる。看板の設置や通路の整備を継続してほしい。	継続	・大手口道整備工事を行う。 延長：300m 内容：排水路の設置、石段への石補充、階段の設置	
16	R1	4	子ども科学館事業 【鉱物博物館】	子供たちの科学への興味・関心を高めるための展示・教室・イベント等の充実を図る。 【評価内容】 様々な活用促進のアピール方法がある。これらを実現するための工夫に期待する。	継続	・R4年度(10月末現在)における入館者数は、12,230人で対前年比170%。新型コロナウイルス感染症対策の休館期間がなく、中津川ロータリークラブによる無料期間（20日<休館日含む>）もあり、新型コロナウイルス流行前の平成31年度の12,177人と並ぶ来館者を迎えることができています。	
17	H30	1	学力向上支援事業 【学校教育課】	各学校の児童生徒や教職員の実態を把握し、支援・指導を行う。 【評価内容】 学校全体の落ち着きがこの事業の成果に上げられているが、卒業式を拝見してもその成果が感じられ感銘を受けた。岐阜県下で一番の手厚い人数配置がされ、子どもたちのケアができています。	継続	【内容】 ・学校と家庭の連携プログラムにより、生活習慣や学習習慣の向上は図り、早寝、早起き、テレビ、ネット等の関わりを毎年調査を行う。 ・学校規模・児童、生徒数、県費学校職員では足りない手厚い配置を実施。 ・学カアッププログラムにかかわるシート作成。 【実績】 さらさ講師A人（英語担当）3人、さらさ講師B18人、特別介助員1名、介助員6人、介助員（旧嘱託）3人、特別支援アシスタント74人、学校司書9人 スクールサポートスタッフ40名の配置を行った。児童生徒の生活、学習をサポートすることができた。	
18	H30	2	公立保育所事業（田瀬保育園、下野保育園統合） 【幼児教育課】	田瀬・下野保育園を統合し、下野保育園での保育を行う。 【評価内容】 統合して活気が出て良かった等の意見がたくさんあり良い結果を得られている。	廃止	事業完了	
19	H30	3	児童発達支援・保育所等訪問支援事業 【発達支援センター】	親子通所を基本に、個別指導やグループ指導による療育指導を行う。園生活の中で困り感のある児童に対し、保護者の同意を得たうえで、集団生活に適応できるための支援を行う。 【評価内容】 園の保育士と発達相談員との連携が上手になってきた。保護者にも大変良い評価をいただいている事業である。	継続	幼児検診、発達相談により通所につながり個々に合わせた支援指導を行った。 通所児童数は、つくしんぼ117人、どんぐり53人（R5.1月現在） 専門療法士による発達段階に合わせた療育指導 保護者支援のための講演会、座談会及びペアレントトレーニング 発達支援関係職員の連携、共通理解を深めるための職員研修の開催 保育所等の集団での生活の課題を専門的にアドバイス	
20	H30	4	体育施設維持管理事業～弓道場の統廃合～ 【生涯学習スポーツ課】	市内の弓道場6施設を3施設に集約する。 【評価内容】 多くの体育施設、公民館等があり、今後も維持管理費削減のためマスタープランにより統廃合、地域移譲をすすめていかないといけない。	継続	令和元年度から市内の弓道場6施設を3施設に集約した。また、4施設（テニスコート、グラウンド、ゲートボール場）の廃止を実施した。	弓道場（福岡・付知・坂下） テニスコート（加子母） グラウンド（加子母第一・福岡西） ゲートボール場（福岡曙）

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
17	H29	1	特色ある教育の推進 ～すご技中津川 プロジェクト～ 【教育研修所】	行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施。 【評価内容】 子どもたちにとって良い事業であるとともに、企業側にとっても「知ってもらおう」という意味では非常に良い事業である。働き甲斐の重要性やふるさと中津川の技術力を学ぶとともに産学官が連携し、小学校からのキャリア教育が進められている。	継続	【内容】 ・行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すご技企業見学」を実施 【実績】 ・児童・生徒を対象に市内協力企業17社で実施（11月7日～12月13日） 市内全小学校18校の5年生で実施 市内小学校3校の6年生で実施 市内中学校5校の1年生で実施 延べ参加人数：1,050人 【担当 学校教育課】	
18	H29	2	放課後児童クラブ運営事業 【子ども家庭課】	20ヵ所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援と施設整備。 【評価内容】 今の時代において必要不可欠な事業である。29年度には指導員の処遇改善がされるとともに、課題であった横のつながりも代表者懇談会などで情報交換を行うなど取り組みが進んでいる。	継続	23箇所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援を実施 阿木地区にて季節学童を実施。	
19	H29	3	B & G 海洋センター運営事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ活動の拠点として活用。 財団の助成を活用した修繕の実施。 コミュニティ拠点とするための活用。 【評価内容】 地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点としてだけではなく、近隣の学校も有効に利用している。当面は継続するが、市民の理解が得られるよう運営や施設の活用面において研究や検討が必要である。	継続	地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点として、計画的な修繕に取り組んでいる。R5年度は付知B & G海洋センターで大規模改修を実施した。	
20	H29	4	小中学校への配本事業 【図書館】	学校要望に沿った図書資料の提供。 【評価内容】 十数年前では考えられないような学校との連携が進み、学校と図書館との距離がぐっと縮まる取り組みである。 年々利用が拡大し、子どもたちの幅広い情報収集につながっている。	継続	配本箇所は、中学校全12校、小学校全17校、幼稚園・保育園12園 ・配本冊数（貸出）は、6,064冊（R5年10月末現在）	
21	H28	1	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	地域協議会を設置し適正化に努める。 【評価内容】 次代を担う子どもたちのよりよい学校教育の環境づくりを目指している事業であり、力を入れる必要がある。 集団の中で生きていくための社会的な力を身につけるためには、学校規模等の改善が急務である。	継続	【新ふくおか小学校】 R5年4月の小学校開校に向けて、協議・調整を継続している。 ・R3年度の統合準備委員会の協議状況 統合準備委員会1回、総務部会2回、学校運営部会1回、環境整備・PTA部会2回 ※その他、各部会の分科会や保護者向け説明会などを実施 ・R3年9月に建設工事（建築・電気・機械）を契約（R5年2月完成予定） ・R3年10月安全祈願祭、近隣住民への説明会を経て着工	
22	H28	2	美術展開催事業 【文化振興課】	郷土の偉人の名（前田青邨・熊谷守一）を冠した全国公募展をそれぞれ3年に1回開催。 中津川市民展を毎年開催。 【評価内容】 学芸員の活躍が功を奏しており、学校への訪問等は良い観点である。 市民展については、小中学生の出品も取り入れ拡大を図ると良い。	継続	・第71回中津川市民展開催 会期：11/18～11/26 場所：にぎわいプラザ5 F 観覧者：1,162名 出品作品数：200点 ※今回は新しくオープンした「ひと・まちテラス」で3賞（市長賞・議長賞・教育長賞）の入賞作品特別展（11/29～12/3）を開催しより多くの市民に鑑賞してもらう機会を設けた。	
23	H28	3	読書推進ボランティア養成 【図書館】	養成講座の開催。 ボランティア等の活動支援。 【評価内容】 ボランティア団体が学校や図書館（室）等で活発に活動している。 「絆プラン」や「美術展開催事業」についても連携しながら進めることができる。	継続	・読み聞かせサポーター養成講座の開催 【全3回 12月7日、14日、21日】 ・付知ブックサポーター養成講座の開催 【全2回 11月22日、29日】 ・ジュニアサポーター 活動日：毎月第2土曜 登録者数26名。基本活動日以外に児童向けイベントのサポート（4, 8, 11月）	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
24	H28	4	絆ブラン 【教育研修所】	朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 【評価内容】 「読書による人づくり」としてH24から続けている。個人の温度差は感じるがやり続けることが大事であり、続けることによって見えてくるものがある。 読書は学習面だけでなく疑似体験ができるすばらしいツールである。相手の立場に立って考える力を高めることにより、いじめ対策等につながる。学校での朝読書は、落ち着いた学習のスタートがされる効果や気持ちを集中させる効果などがある。 読書をする習慣をつくることが大事である。	継続	【内容】 朝読書の推進。読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。図書貸し出し推進。東農地区学校図書館賞審査参加推進。 新型コロナウイルス感染防止対応により、通常の貸出や取組の困難さはあるが、学校規模等に応じた取組をしている。 【実績】 学校司書9名。小学校平均貸出し冊数：115.9冊、中学校平均貸出し冊数：29冊 学校図書館教育賞参加校 R4年度実績：2校（優秀賞1校、努力賞1校）	
25	H27	1	学力を高める授業づくり 【教育研修所】	学力定着状況の分析。 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【評価内容】 よりよい授業づくりのための指導のポイント5項目は、指導項目がさらに明確になり、先生の授業力アップにつながる。先生の意識改革にもつながり、この取り組みをさらに充実し継続してほしい。	継続	【内容】 授業方法の指導。研究発表会の開催 【実績】 R4年度は3校、1園で実施 阿木中、南小、坂下小、南幼稚園	
26	H27	2	一部保育園の民営化の推進 【幼児教育課】	小鳩保育園の民営化。 【評価内容】 今回初めて民営化ができるのでこれを元にしかりデータを残し次につなげて市全体の保育の充実につながるよう継続してほしい。	継続	事業完了	
27	H27	3	地域活動のキーパーソンや コーディネーター等の人材 育成 【生涯学習スポーツ課】	県の人材育成事業を活用した講座の実施。 実践講座の実施。 【評価内容】 地域のコミュニティーは子育てにとってもとても大切なものである。既存組織の活用や、誰に声をかけていくかが大事である。コミュニティーの意識が希薄になってきており、目標、着地点を明確にして継続してほしい。	継続	生涯学習により学び得た自分の知識、技術、経験を役立てて地域における課題の解決をめざす＝地域活動のキーパーソンやコーディネーター等の人材育成を目的とした市内13公民館で地域の絆づくり講座を開催。 R5年度は72講座を開講。	
28	H27	4	博物館事業 【鉱物博物館】	博物館の特徴を生かした教室・講座等の開催。 利用者の学習支援。 【評価内容】 学校や事業所への出前授業、出前講座はこちらから出向くという点では、とても効果があると思う。子どもたちに興味を持たせるきっかけにもなり今後も継続してほしい。	継続	博物館5館のR4年度（10月末現在）における教室・講座等、講演会、団体学習支援の実施状況は、225件、4,078人で対前年比件数は167%、人数は136%。うち出前事業は6件、152人で対前年比件数は86%、人数は84%である。	
29	H26	1	学校給食施設整備計画策定 事業 【施設計画推進室】	平成27年度までに学校給食施設整備計画策定委員会を開催し学校給食施設整備計画を策定する。 【評価内容】 ひとつの選択として公設民営化も視野に入れ、継続してできるだけ早い時期に計画を立てて進めてほしい。	継続	学校規模等適正化事業へ移行	
30	H26	2	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	教員のスキルアップを図るための研修の実施。 【評価内容】 よい授業をする教員は子どもにとって魅力があり、そういう教員を見れば子どもが「教員になりたい」と思う。教員がレベルアップしないと子どもたちに反映されない。したがって教員の学ぶ場を揃えることのないようにしてほしい。 研修を充実させるためには予算が必要である。費用を抑えるのではなく、予算をもっと獲得できるように工夫しながら継続してほしい。	継続	【内容】 教員のスキルアップを図るための研修を実施 【実績】 ※事業名変更 【現在：研修所事務事業】 教育実践講座（夜学）年10回計画したが、コロナ感染症対策の影響もあり、5回の開催となった。対象者75名参加	
31	H26	3	生涯学習活動の推進 （サポーターポイント制度事業） 【生涯学習スポーツ課】	サポーター活動の推進。 ポイントの対象となる作業活動の選定・募集。 【評価内容】 ボランティアで何かやることは自己実現になるものがあり、生涯学習として大事なこと。もっと、やりがいを感じられ、たくさんの人に参加してもらえらる事業になるようにPRをして広げ、ボランティア作業の内容も楽しいことややりがいのあることを増やすなど、やり方を変えて継続してほしい。	継続	サポーター活動件数を増やす取り組みとして、各地域への働きかけ、ポイントの対象となる作業活動の選定・募集を継続実施した。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
32	H26	4	読書による人づくり 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ジュニアサポーター養成講座の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 図書館まつりの開催。 「あなたへ贈る一冊」をテーマにはがきコンクールの開催。 【評価内容】 図書館ボランティアの活動が素晴らしいが、伝えていけることが肝心であるため、広く長く継続してほしい。 ソフト面は充実してきたが、ハード面が追いついていないので、将来的にはハード面の充実も視野に入れて継続してほしい。 図書館のいろんな利用方法が市民に理解されてきて「貸す」「借りる」だけでなく図書館の楽しみ方が広がってきた。今関わっていない人をどう巻き込むかが課題だが、さらに輪を広げながら取り組みを続けてほしい。	継続	・「ブックスタート事業」は「絆スタート事業」と名称変更し、月1〜2回、3ヶ月健診へ司書が訪問し絵本の紹介等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、健診方法も変更となったため、訪問は中止とし絵本の紹介資料のみ配布 ・図書館ボランティア養成講座は通番23のとおり（ジュニアサポーターについては、講座形式ではなくサークル活動形式となっている） ・中津川えほんジャンボリーは図書館の移転に伴い新図書館（9月）と子ども科学館（11月）で開催 ・はがきコンクールは図書館移転の為、R5は未実施 ・図書館まつりは11月に月間で開催	
33	H26 (H25実施)	1	個別学習支援事業 【学校教育課】	個別学習指導助手の配置。 【評価内容】 子どもたちの将来のためにはこの事業の人員配置は大きな意味がある。相談面と学習面の2つの支援ができる指導手を確保することは困難な状況があるため「相談にのれる人」と「学習を教えられる人」というくりに分けて雇用する等、個別学習支援指導助手を増やし一人でも多く長期欠席している児童生徒を復帰させる取り組みを継続してほしい。	継続	【内容】 指導助手（学習支援）（不登校対応）の配置 【実績】 学習支援指導助手として7名を配置し、通常学級、特別支援学級において、特別な支援が必要な児童生徒の学習のサポートを行った。不登校支援指導助手として10名を配置し、生活支援、個別支援を行った。	R2年度から会計年度任用職員（個別学習指導助手→指導助手）と変更されている。
34	H26 (H25実施)	2	幼児教育推進事業 【幼児教育課】	幼保小連携協議会の開催。 地域教育支援委員会の開催。 アプローチ・スタートカリキュラムの実施。 リーフレット「もうすぐ1年生」の作成・活用。 【評価内容】 幼稚園、保育園、小学校と家庭が連携し学校生活を送るための必要なルールを教えることはもちろんのこと、よりよいひとりでたがができる「生きぬく力」を育てることがはと重要なことで継続してほしい。 幼稚園、保育園は先生と保護者のつながりが強いが、小学校は先生と保護者のつながりが弱くなっていく傾向があるので、幼稚園・保育園の保護者と小学校の先生が懇談する場を設ける等、保護者の不安を取り除くことが大事である。	継続	ジョイントカリキュラム（発達や学びをつなぐ幼保ここのカリキュラム）を市内全幼保こ小で実施した。 幼保小連携協議会を市内全小学校区で年3回以上実施した。 地域教育支援委員会を年3回以上実施し、支援の必要な園児・児童の情報を着実に共有した。 リーフレット「もうすぐ1年生」を市内全小学校に作成・配布し、入学説明会の資料として活用した。 ・岐阜県幼児教育アクションプランがR4年3月に改訂されたことに伴い、幼児教育推進事業の基本方針を「つなぐ、つながる」から「つなぐ、高める、支える」とした。指導力の向上に重点を置きダイジェスト版を作成し、HPで公開して園への配布も行った。	
35	H26 (H25実施)	3	子育てサポーター養成講座事業 【生涯学習スポーツ課】	子育てサポーターリーダー養成講座、子育てサポーター養成講座基礎編の開催。 【評価内容】 この事業は単にサポーターを育成するだけでなく、子育てに悩んでいる親が受講することにより子育ての不安、悩みを解消することができるもの。その受講生が同年代の子育て中の親へ助言をすることができるようになり、輪を広げながら親の安心感につないでいくために受講生を増やす工夫をしながら継続してほしい。	継続	事業名変更 【現在：子育てマイスター養成講座事業】 県の子育てサポーター制度の廃止に伴い、H30年度から中津川市独自事業として子育てマイスター制度に再構築して開催している。 子育てサポーター（県）195名育成※H28までの制度 子育てマイスター（市）104名育成※R5年度：6名認定 両制度受講者総数：547名	
36	H26 (H25実施)	4	苗木城跡保存整備事業 【文化振興課】	二の丸的場跡石垣修復工事。 【評価内容】 長期間取り組んでいる事業でずいぶん整備され変わってきた。「天空の城」みたいなキャッチコピーをつくり、まず市民に関心を持ってもらいたい。市民の誇りになるよう継続して整備してほしい。	継続	通番11に同じ	
37	H25	1	坂本地区教育施設総合整備 検討事業 【施設計画推進室】	坂本地区学校、幼稚園、保育園などの総合整備に向けて協議会を開催。 【評価内容】 地域の意見を聞いているだけでは進まない。事業の状況を考えると、教育行政の主導が大切であり、専門的な立場から方向性を示していくように実施方法の見直しと改善を行いスピードをあげて進める必要がある。 リニア駅の近くに学校があるということ是不特定多数の人が出入りすることが可能であり環境的に良く思えない。現在の場所から移転することも視野に入れ、長期的観点から総合計画や都市計画でしっかり位置づけをして取組み、スピード感を持って進めていくことが必要である。	継続	【こども園整備事業】 （幼稚園・保育園一園化） R2年4月坂本こども園開園 【小学校建設事業】【学校給食調理場建設事業】 （坂本文教施設再配置） R2年11月 まちづくり協議会教育文化部会にて基本構想案にとりかかることを説明 R3年3月 基本構想案（たたき台）をとりまとめ R3年度はR4年度に予定する旧幼稚園園舎の解体と場内整備（駐車場）、その後の活用方法について地元協議を行う。	
38	H25	2	学校施設長寿命化改修事業 【教育企画課】	第一中学校大規模改修補強工事。 加子母中学校屋内運動場大規模改修補強工事。 蛭川中学校大規模改修工事。 【評価内容】 大規模改修により学校が安全な場所になりきれいにもなったという成果が見られる。今後も現場の意見を聞いて進め、子どもたちが勉強しやすい環境づくりをしてほしい。 計画的な推進と同時に学校規模等適正化基本計画の進捗を見据えつつ、改築等の方法も模索する。	継続	H28年度を最後に老朽対策の大規模改修工事事業は凍結となっている。なお、令和5年の夏休み明けから福岡小学校は授業を開始し、子どもたちは新しい環境で生活をしている。 R3年度は学校施設長寿命化計画に従い、施設に不具合が生じた際には、その都度、事後保全にて施設の補修を行った。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
39	H25	3	のびのび学習支援指導助手 配置事業 【学校教育課】	指導助手の配置。 指導助手を対象とした研修会の開催。 【評価内容】 二人の先生に教えてもらえることで成績が上がったと子どもたちが感じる事ができており、必要な事業であることがわかる。縮小することなく拡大していくことが中津川の将来のためになると思う。大勢の手を掛けたり環境づくりをしたら、中津川市が言っている「たくましい子」「一人立ちのできる子」が育つかという疑問も残る。別の視点でも考える必要がある。 多様なニーズに対応するため、指導助手の確保に努める。人の配置だけでなく、効果的な活用の在り方、人材確保について更なる努力を重ねていく。 事業の成果が継続されるように、雇用をしっかりと確保できる仕組みが必要である。	継続	【内容】 さらさ講師B、指導助手の配置 さらさ講師B、指導助手を対象とした研修会の開催 【実績】 指導助手 7名（小学校6校、中学校1校） さらさ講師B 18名（小学校9校、中学校7校） 通常学級において、担任（教科担任）のサポートとして授業を補助している。授業を複数の教員で行うことによって、よりわかりやすく、楽しい授業づくりを行うことができています。また、児童生徒の学習状況を的確につかむことがしやすく、支援が必要な児童生徒に対して個別に指導を行うことによって、力を伸ばすことができています。	R2年度から会計年度 任用職員（のびのび 学習指導助手→さら さ講師B、指導助手） となります。変更さ れている
40	H25	4	ふるさと中津川学習事業 【教育研修所】	郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【評価内容】 中津川市のことを勉強するためにはなくてはならない教材となっている。 中津川市のことを知ってもらうために少しずつでも校正しながらより良いものを作ってほしい。 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂は激しい社会の変化に即して実施し、事業の成果を継続させる必要がある。 文化と対応した資料の収集と効果的な提示に努めたい。	継続	【内容】 郷土学習のための資料作成し学校へ配布 【実績】 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂（すご技プロジェクトの紹介ページを追加） 歴史資料を授業の中で効果的に活用するための指導案の作成	
41	H25	5	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	放課後児童クラブの運営支援。 【評価内容】 共働きが増えていく状況の中、無くては困るしありがたい事業である。 ボランティア指導者をデータバンク化しておくことで、指導員の負担が減少すると思う。 老朽化が進んでいる施設については、改修を行うなど施設の充実を図る必要があり、拡大して欲しい事業である。 未設置校区にも需要はあると思われる。確かな需要の洗い出しを行い、どの子にも安全・安心な居場所を確保していく。 既設置地域も含めて、ニーズの変化も推測しつつ既存施設を含めた総合的な整備を検討する。校舎改修等とも関連づけていく。	廃止	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番18に記入	重複する為廃止
42	H25	6	郷土資料調査活用事業 【文化振興課】	地域の郷土資料・行政資料の調査とデジタル化。 【評価内容】 郷土の大切な資料を後世に残していく大事な事業なので、ホームページ等でアビールの仕方を工夫し、たくさんの人に知ってほしい。 少ない人数で作業を行っているため、ボランティアの活用を広め古文書が読める等の作業協力者を増員して作業を進めてほしい。 郷土資料の散逸を防ぐため調査の継続とデジタル化に努める。 後継者の育成、増員が必要。 資料収蔵施設の確保が必要。	継続	H24年度から実施している地域の郷土資料・行政資料の調査は、川上、付知、山口が終了し、坂下、加子母、福岡、蛭川で継続している。 H30年度より国庫補助事業で、遠山史料館に収蔵している遠山家伝来資料の調査事業を実施している。 R5年度は引き続きで古文書、工芸品の調査を、新規で和歌の調査を実施している。	
43	H25	7	子ども金メダル事業 【生涯学習スポーツ課】	文化スポーツ活動で活躍する子どもたちに「中津川市子ども金メダル」を授与。 【評価内容】 選考基準が曖昧な部分があるので内容を精査する必要がある。 東京オリンピックも行われることとなり、金メダルの意味や価値等を子どもにしっかりと認識させ質を高めてほしいと思う。 選考基準を明確化する。授与の方法について検討する。 事業の周知も必要。	継続	子ども金メダルの授与式を毎年継続して実施している。市広報等を通じて、事業の周知に努めている。	
44	H25	8	こころのプロジェクト事業 【生涯学習スポーツ課】	トップアスリートやOBの方を招き「夢の教室」を市内全小学5年生を対象に実施。 【評価内容】 子どもたちに夢を持たせる良い事業である。 小学5年生に固定して継続してほしい。 目的通りの成果が上がっている。中学生への拡大をどうするか試行の成果で評価をする。	継続	市内全小学校5年生を対象にJFAこころのプロジェクト夢の教室をH23年度から毎年継続して実施している。	
45	H25	9	読書活動推進事業 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 第1回はがきコンクールの開催。 図書館まつりの開催。 【評価内容】 ボランティアの方の活躍により読書活動が盛んになったと思う。 ボランティアの養成をどんどん行い、充実させてほしいと思う。 地域・幅広い年代の参画者を増やし更に充実させたい。 幼保小中の絆プランとつながりを作り、より効果を上げたい。	継続	通番32に記入	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
46	H25	10	地域図書室充実事業 【図書館】	公民館図書室の充実。 地域事務所に図書室を設置。 【評価内容】 ボランティアの養成をどんどん行い、地域の図書室を充実させてほしいと思う。 地域図書室の充実、その特色を生かすネットワーク化を進めるとともに、事業の周知をすすめ図書館（室）利用を活かす。 地域図書室の活動を充実させるために最も大切な「人」という資源について、更に工夫を加える必要がある。	継続	・週2回、公民館図書室、図書コーナーへ配本 各公民館図書室まつり等イベント時の支援 月1～2回、司書による巡回、業務補助及び指導 ・ブックサポーター養成講座（付知）を開催 （11月）	
47	H24	1	移動教育委員会事業 【教育企画課】	地域開催7回。テーマ：①読み聞かせ、読書活動について②学校規模適正化基本計画について 発達支援センター開催2回。 【評価内容】 教育委員と話せる貴重な機会なので継続したいが発言しにくい部分があり方法を変えてほしい。 合併して10年以上経ち別の方法や活性化を求める。 校区の組み合わせ、説明、委員の発言時間等検討し自由な意見を引き出す手法を研いでいく。 テーマについては学校・園代表が議論、意見集約ができるよう早く周知したい。	継続	教育委員会が6地区に出向き「中津川の教育」を説明し、グループに別れテーマについて懇談する会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年、3年度は中止とし、令和4年度からは教育ICT環境を活用した動画配信方式での開催とした。 発達支援センターでの会は、11月に2回開催	
48	H24	2	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	パブリックコメント活動の展開。 学校規模等適正化基本計画の完成。 【評価内容】 基本計画はできたが推進事業としては途中である。地域への説明の仕方等改善の必要がある。他市と比較すると進み方が遅く説明不足を感じる。「この規模の学校が必要なんだ」という具体的な案を教育委員会がもっと強く指針を出して進めていくことを求める。	継続	通番17に記入	
49	H24	3	確かな学力推進事業 【学校教育課】	読書環境の充実。 「学力アッププログラム」の推進。 【評価内容】 中津川市全体で学力アッププログラムに取組むことはとても良いこと。学力アッププログラムは継続し、司書は増員を求める。学力アッププログラムは学校によって差があるので調整を求める。学力アッププログラムは子どもが多い家庭、親の仕事等環境に応じた多様な対応が必要である。	継続	【内容】 「学力アッププログラム」の推進 ※事業名変更 【現在：学力向上支援事業】 R5年度も全幼稚園、保育園、小・中学校の園児・児童生徒にプログラムシートを配付し、取り組みを行った。	
50	H24	4	特別支援指導助手配置事業 【学校教育課】	特別支援指導助手の配置 【評価内容】 極めて重要な事業であり、手厚く取り組んでもらっている。指導助手の配置を希望する学校に対し、配置が100%ではないので増員を求める。	継続	すでにこの事業はありません。	R2年度から会計年度任用職員となり「個別学習指導助手」と「特別指導助手」が一本化され「指導助手」として各校に配置されている。
51	H24	5	子ども自立援助事業 （適応指導教室） 【教育研修所】	適応指導教室における教育相談・登校支援。 教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【評価内容】 極めて重要な教室である。指導員の確保、増員を求める。 一人ひとりに応じ、きめ細かい指導が行われ、良い結果に結びついているが、指導員に対しても手厚い配慮が必要である。	継続	【内容】 ・教育支援センターにおける教育相談・登校支援 【実績】 ・教育相談に係る研修会の実施（年6回） ・教育支援センター相談件数503件（R4年実績） ・通室希望者が増える中（通室者22人）で、着実に学校復帰ができた児童生徒数（復帰・回復）も増えている。 ・教育相談ネットワーク研修会（年4回）を教育相談コーディネーターを中心に研修を進めた。	
52	H24	6	公立保育園耐震改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	耐震化未実施の園への耐震補強・改修（蛭川・一色・坂本保育園）。 【評価内容】 計画通り進んでいる。 建物の耐震化だけではなく、危険箇所、非構造部材等の対策も早くできるように求める。	継続	事業完了	
53	H24	7	芸能文化人づくり事業 【文化振興課】	地域伝統芸能文化活動支援。 芝居小屋等の利用・活用・保存整備。 【評価内容】 伝統を継承している団体の支援となっている。 伝統芸能継承のために活動している団体に事業の周知を求める。 子どもの時から教える必要があるため、小学生に呼びかけを求める。 アピールして参加者を増やすことを求める。 子どもたちが一度の経験で終わらず、保存会に定着できるような魅力づくりと手助けが必要である。補助金に依存しない保存会活動の強化も課題である。	継続	R5年度も伝統を継承している団体の活動支援を行った。 飛騨・美濃歌舞伎大会を中津川市で開催した。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
54	H24	8	スポーツ団体・スポーツ事業 等支援事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ関係団体への助成。 全国大会の誘致。 指導者育成のための講演会・講習会に対する助成。 【評価内容】 スポーツを通して人とのつながりを持てる大切な事業である。 交付金だけを頼らず、自立させるよう導くことを求める。 企業を巻き込む等、手法を考えながら拡大していくことを求める。	継続	スポーツ団体や大会の支援を継続して実施 H28年度からは企業の協賛金を募りながら、清流木曾川中津川リレーマラソンが開始され、今年度第6回大会が開催された R4年度からオフロード版トライアスロンの「エクステラ」が、根の上高原を会場に開催された。	
55	H24	9	家庭教育支援事業 【生涯学習スポーツ課】	家庭教育専門講座の推進。 子育てサポーター養成講座の開講。 公民館の乳幼児学級の支援。 【評価内容】 今は核家族が増え、孤立する親を支援する必要がある。 より多くの人に家庭教育を勉強してもらうための工夫を求めらる。 ITを活用し、ホームページで子育て相談等をすすめる。 事業内容を細かく分けて、一人ひとりにあった支援を求める。 子育てサポーターは子育て世代や女性だけでなく、祖父母の年代等幅広い受講者を取り入れていくのも重要である。	継続	家庭教育専門講座の推進として 「親子の絆づくりプログラム（愛称BP）」→初めての子育てる親同士の学びの講座 「ノーバディーズパーフェクトプログラム（NP）」→親同士が学びあう託児付きの講座を実施。コロナ過で日程変更等があるにも関わらず多くの受講者が仲間づくりや家庭教育についての学びを深めている。 子育てマイスター養成講座の開講。受講者は20代～70代の子育て中の親から、孫育ての方まで多岐にわたり、その中で交流も深まっている。 全13公民館の乳幼児学級を継続支援	
56	H24	10	中津川市市民国際交流事業 【生涯学習スポーツ課】	中学生及び一般スタッフの海外派遣研修。 【評価内容】 参加した中学生は一段とたくましくなり、誰もが「貴重な経験をした」と感想を残している。現在のままで十分な体験ができています。行き先はタイを続けてほしい。 学校内では結果報告がなされているが、良い事業なので市民への広報が必要である。	継続	中学生及び一般スタッフのタイ王国への海外派遣研修を実施していたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施を見送った。 (R2～R5は中止) R5年度はMOTTO×JIMOTOごちゃまぜフェスタにてPRブースを出店しタイ語教室を実施。各中学校にPRパネルを展示するなど事業のPRを行った。	
57	H23	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等24件。 【評価内容】 審議事項はもとより、今後も報告・協議事項についても積極的に議論を行い施策の推進を図っていく。	継続	定例会12回、臨時会1回、協議会12回開催	
58	H23	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換等の実施。 市長等との懇談会の実施。 【評価内容】 懇談会等の内容を周知させる方法を検討し活動実態やその大切さを多くの方にとって頂くことができると良い。	継続	移動教育委員会事業、学校規模等適正化事業へ移行	
59	H23	3	遠距離通学事業 【教育企画課】	定期券支給（小学校44人中学校21人） 補助金支給（小学校35人中学校11人） 【評価内容】 学校環境の変化に合わせ適切に対応していく。	継続	定期券支給（小学校49人、中学校8人） 補助金支給（小学校21人、中学校10人）	
60	H23	4	学校給食管理事業 【学校教育課】	学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。 【評価内容】 より安全安心な給食提供のため、調理員研修の充実を図る必要がある。	継続	【内容・実績】 学校給食の実施 栄養教諭・栄養職員・調理員研修の実施 給食業務従事者の腸内細菌検査実施	
61	H23	5	中津川市教育史料調査事業 【教育研修所】	明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【評価内容】 学校に多くの貴重な資料が保管されており、事業のあり方、従事する方々の充実等含め発展的に進めていただきたい。	継続	【内容】 明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行 「興風学校日誌」として改訂版発行 【実績】 資料のデジタル化を継続的に実施	
62	H23	6	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度のもとで民間ノウハウを生かして運営されており良い結果がでている。経年の適切な評価を実施しながら継続を検討していく。	継続	児童館4館を指定管理制度により、学校法人恵峰学園が運営。 幼児の保護者向けセミナーなどを実施。	
63	H23	7	子育て支援事業 (地域子育て支援拠点事業) 【子ども家庭課】	利用者数（中津川9,364人、福岡3,329人、加子母2,234人、坂本7,048人） 交流の場の提供、子育て相談の実施。 各センターにおいて年齢別ひろば等を開催。 【評価内容】 福祉部門との連携強化を図りながら、相談しやすい環境づくりによりリピーターを増やす施策に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業、啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	子育て支援センター（直営2か所、運営委託5か所）を運営。未設置地域では出張ひろばを開催 坂下地域においてやさか子育て支援センターを開所。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
64	H23	8	地域療育推進事業 【幼児教育課】	発達相談・検査1,124人。 訪問相談343人。 発達障がい理解促進講演会、研修会、相談会等の開催。 【評価内容】 福祉部門との連携を図りながら、臨床心理士等の専門職の確保に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	※事業名変更 【現在：子ども相談・支援事業】 発達相談及び必要に応じた発達検査の実施 早期発見や適切な支援を行うため、幼保・小中学校からの依頼により心理士による訪問相談を実施 専門の相談員が園を訪問し、支援の必要な幼児への関わりについて助言指導を実施	
65	H23	9	文化財保護調査活用事業 【文化振興課】	指定文化財289件の管理。 国指定苗木城整備事業については帯曲輪石垣修復整備。 【評価内容】 広域化した市の現状から担当部署の行動力と地域との連携が不可欠。県内外を問わず観光部門とも連携しながら積極的に広報する姿勢と、文化財等の歴史的重要性が周知される必要性を感じる。	継続	引き続き指定文化財289件の管理を実施 落合宿本陣では、H29年度より毎週日曜日、祝日及び予約のある日に、案内ボランティアによる公開を実施している。 令和5年度の見学者は1,593人。	
66	H23	10	青少年健全育成事業 【生涯学習スポーツ課】	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動の実施。 青少年悩みごと相談実施。 【評価内容】 研修の充実をはかりスキルアップしていく必要性を感じる。 青少年悩みごと相談は相談件数が少ないようなので、相談の時間帯の変更等の検討も視野に入れ更なる充実を図ってほしい。	継続	13支部3分会それぞれで青少年健全育成活動、夜間パトロール、補導活動等を実施した。 全体活動として実施した主なものは以下のとおり R5.6 少年の主張中津川市大会 R5.7 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」及び第73回「社会を明るくする運動」中津川市大会 R5.11 子育て親育ちシンポジウム(市P連と合同開催)	
67	H22	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等41件。 【評価内容】 教育委員会の権限に属する事務については適切に管理・執行することができた。 協議会において積極的に議論を行い施策の推進を図ることができた。	継続	通番53に記入	
68	H22	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換の実施。 市長との懇談会の実施。 【評価内容】 移動教育委員会は地区開催と発達支援センターの開催回数をそれぞれ1回ずつ増やし、より多くの保護者からの意見聴取に努めることができた。 学校規模等適正化については地区説明会を行い課題の検証に努めることができた。	継続	通番54に記入	
69	H22	3	小学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本小学校特別教室増築工事。 苗木小学校身障者用施設改修工事。 坂下小学校屋内運動場便所改修工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたことと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増え、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 R5年度に実施した主な工事 ・坂本小学校昇降口改修工事 ・東小学校バスケコート取替工事	
70	H22	4	中学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本中学校屋外便所新築工事。 苗木中学校管理棟屋上防水改修工事。 福岡中学校汚水専用ポンプ取替工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたことと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増え、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。 R5年度に実施した主な工事 ・福岡中学校バスケコート取替工事 ・坂下中学校がス漏れに伴う設備改修工事	
71	H22	5	スクールバス運営事業 【教育企画課】	加子母・福岡・付知地区7台スクールバス運行。 坂下・川上スクールバス運行委託。 【評価内容】 義務教育の機会均等の確保と保護者の負担軽減を図ることができたことと評価する。 学校規模適正化の方向性により手段を見直すことも必要である。	継続	加子母地区2台、付知地区1台、福岡地区4台スクールバス運行 坂下（山口・川上）地区スクールバス運行委託 付知地区のスクールバスを老朽化のため1台更新	
72	H22	6	小学校管理費 【学校教育課・教育研修所】	命の教育、ふれあい交流科学探検、文化鑑賞、通級指導教室の実施。 【評価内容】 事業目的に沿った計画・実施がされているものと評価する。 豊かな心を育むための情操教育や命の教育等の取組は今後更に重要となる。 通級指導教室のニーズも増加しており充実した運営が求められる。	継続	【内容】 中津川市命の教育、ふれあい交流科学探検、通級指導教室の実施 【実績】 幼稚園、保育園、こども園、小・中学校で年間複数回の命の教育の授業や活動を実施。夏に合同研修会を実施。11月に第一中学校で実践授業を公開した。	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
73	H22	7	子ども自立援助事業 【教育研修所】	適応指導教室の自立支援（相談件数1493件）。 個別指導サポーター対象校3校各1名配置。 教育相談ネットワーク会議等の開催。 【評価内容】 子どもたちの心の不安の解消や健全な成長のために様々な取組が実施できていると評価する。 多様化する不登校事情に対応すべく各施設の機能強化を図っていく必要がある。 指導者、相談員の後継者不足が懸念されるため人材確保が急務である。	継続	通番511に記入	
74	H22	8	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 適正化計画のPTA・地域住民への説明。 【評価内容】 規模等適正化の中で幼保一元化や私立への移行を含めて検討していくこととなり、将来的な方向性を示すことができたとして評価する。 国の幼保一体化等の推進政策を見据え、保護者等の理解を得ながら計画的に取組んでいく必要がある。	継続	・R6.4月公立の幼稚園は統合により1園となり、幼稚園においては「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画」で目標とする形となった。	
75	H22	9	保育園大規模改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	落合・小鳩保育園耐震改修。 坂下保育園給食室改修。 【評価内容】 2園舎の耐震改修を行うことができ園児の安心・安全について推進できたと評価する。 今後も施設の耐震化等は計画的な取組が必要である。	廃止	・事業完了	
76	H22	10	児童館運営事業 【子ども家庭課】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 乳幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度による施設運営については、随時その運営状況を検証・評価していく必要がある。	継続	通番621に記入	重複する為廃止
77	H22	11	発達支援事業 【発達支援センター】	通所児262人（つくしんぼ150人、どんぐり112人） 医療療法士等による療育指導、保護者のための講演会や職員研修の実施。 【評価内容】 希望する全員の入所が可能になるよう指導員体制を拡充できたと評価する。 H21年度から総合事務所管内の5施設を「児童デイサービス事業所」として組織化（どんぐり）し、市の発達支援センターとして一体的に運営できるようになったと評価する。 個々のニーズに応えるきめ細やかな取組が求められており、各施設の機能強化と発達相談室・園・学校との連携強化を図っていく必要がある。	継続	H30通番No.31に記入	
78	H21	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、協議会12回、審議件数等36件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番531に記入	
79	H21	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 校長会理事会との意見交換の実施。 小諸市視察の実施。 学校規模等適正化検討委員会への諮問。 【評価内容】 学校規模等適正化への取組に着手することができた。 学校規模等適正化への取組は今後より多くの意見を集約し、教育振興基本計画等により教育委員会の基本姿勢を明確に示していく必要がある。	継続	通番541に記入	
80	H21	3	中学校教育振興事業 【教育企画課】	中学校授業のための教材備品の整備。 【評価内容】 各校の実情をヒアリング等により把握に努めるとともに、適切な予算執行ができたとして評価する。 授業を直接的に支える事業として更に拡充していく必要がある。	継続	学校からの要望について、計画的にヒアリンを実施し、把握することで適切な予算執行を行うことができた。	
81	H21	4	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率76%（入居60戸/全79戸） 【評価内容】 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設について整理計画を策定し、改善に向けての道筋を付けることができたとして評価する。	継続	教員住宅の維持管理を継続して実施する（管理戸数58戸、入居29戸）	管理戸数のうち8戸は解体待ちの状態

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
82	H21	5	中学校教育充実事業 【学校教育課】	中学校理科備品及び図書整備。 中学校就学支援。 【評価内容】 理科備品については、理科教育振興事業を活用し対象校の実情に応じた有効かつ効率的な整備がされたと評価する。 図書整備は学校毎の創意工夫により効率的に整備がされたと評価する。更に運用面を含めた充実に努めていくものとする。 就学支援については地域ネットワークの活用推進を図る。	継続	【内容・実績】 学校図書室図書の整備・充実 学校活動の充実と教育活動の推進	
83	H21	6	『ふるさと中津川』学習事業 【教育研修所】	社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。 【評価内容】 「ふるさと中津川」「中津川市地図」については社会事象の変化を取り込んだ適切な内容に改訂されたと評価する。 使用する写真等については今後も随時改訂を行っていく必要がある。	継続	通番611に記入	
84	H21	7	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 【評価内容】 園児数の減少等の課題に対し、適正化検討委員会の答申をもとに今後の在り方についての計画を策定する必要がある。	継続	事業完了	
85	H21	8	私立幼稚園助成事業 【幼児教育課】	私立幼稚園（4園）への運営助成。 【評価内容】 年齢及び園児数に応じた助成により幼児教育の充実に寄与できたものと評価する。	継続	私立幼稚園3園への運営への助成により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。	
86	H21	9	私立幼稚園就園奨励事業 【幼児教育課】	私立幼稚園保護者への助成事業（H20年度対象者480名） 【評価内容】 保護者の所得に応じた助成により保護者の経済的負担を図るとともに私立幼稚園の振興にもつながったものと評価する。	廃止	事業完了	
87	H21	10	高等学校費 【阿木高等学校】	阿木高校の運営（在校生生徒数4学年209名）。 【評価内容】 昼間定時制として他にはない特色ある運営がされていると評価する。	継続	阿木高校の運営（在校生生徒数：R5年5月1日現在、4学年89名）	少子化に伴い、生徒数が減少している。小・中学校から指導の継続が必要な生徒の割合が増えている。
88	H20	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、臨時会1回、協議会12回、審議件数等38件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番53に記入	
89	H20	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 青年会議所・広報会長会との意見交換の実施。 市内保育所・小中学校現地調査の実施。 【評価内容】 関係者からの意見を移動教育委員会により集約できた。 教育分野以外の団体との意見交換を教育懇談会の中で実施できた。 対象の輪をより一層拡大し教育施策へ反映すべく意見集約に努めて欲しい。	継続	通番54に記入	
90	H20	3	奨学資金貸付事業 【教育企画課】	大学生47人高校生15人への貸与。 制度改正（専修学校を貸与対象、遠距離通学高校生のための資格要件緩和）。 【評価内容】 貸与額、予算枠は県内トップレベルであり市民ニーズに応える制度であると高く評価する。 貸付対象の拡大等の制度改正を行い、利用者のための利便性を向上できたものと評価する。	継続	高校生3人、大学生25人、専修学校生7人へ新規貸与	
91	H20	4	小学校大規模改造補強事業 【教育企画課】	苗木小学校耐震化・大規模改修工事。 翌年度以降に耐震化する校舎等の計画と設計の委託。 【評価内容】 施工方法を見直し視界を妨げないかたちで校舎の耐震化を図ることができたことは高く評価できる。 校舎の耐震化を最優先させた実施計画は適切なものである。	廃止	校舎の耐震化については完了している。老朽化改善のための大規模改修工事については、H28年度を最後に凍結となっている。	
92	H20	5	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率84.8%（入居67戸/全79戸） 【評価内容】 老朽化等により利用されない教員住宅もあり非効率な面がある。 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設は取壊しの計画を策定する。	継続	通番77に記入	

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和5年度）の内容・実績	備考
93	H20	6	中学校能力開発事業 【学校教育課】	ALT等講師派遣。 サマーサイエンススクールの実施。 部活動・情操教育への助成。 【評価内容】 ALT事業は本物の英語を学ぶ機会として評価できる。 サマーサイエンススクールは高い科学の体験学習ができる貴重な機会として評価できる。 それぞれの事業の手法にはなお改善の余地はある。 重点的に取組むべき対象と方向性は妥当である。	廃止	【内容・実績】 岐阜サマー・サイエンス・スクールはオンライン講義で実施した。 市内197名、市外30名の中学生が参加した。 ※サマーサイエンス事業への負担金として、中津川市未来を担う人材育成事業で継続中 ※ALT等講師派遣も、学力向上支援事業で継続中である。	
94	H20	7	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	年間89回の学校訪問指導、年間56回の研修会の実施。 教育実践論文集、研究紀要の発刊・配布。 【評価内容】 学校訪問と各種研修会は回数も多く精力的に実施されている。 教育実践論文等の発刊など広範囲な取組がされている。	継続	通番30に記入	
95	H20	8	公立保育所運営事業 【幼児教育課】	公立保育園17園の運営と維持管理。 【評価内容】 運営と園児の受け入れは目標が達成されてきたものと評価できる。 少子化社会に相応した運営が必要であり、効率性、有効性において改善の余地がある。	継続	公立保育園等（認定子ども園7園含）15園での保育実施 民間との協働のもと受入体制を整え、R6年4月現在の待機児童数は0人 中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画に基づき少子化に対応した形でよりよい幼児教育・保育環境を提供している。	
96	H20	9	法人保育所運営事業 【幼児教育課】	法人保育園6園への保育事業の委託。 【評価内容】 民間の特徴である機動力と柔軟性、効率性によりその運営も円滑に行われていると評価する。	継続	法人保育所6園、認定こども園2園、小規模保育事業所3園への保育の委託や財政的支援を実施 民間との協働のもと受入体制を整え、R6年4月現在の待機児童数は0人	
97	H20	10	放課後児童健全育成事業 【子ども家庭課】	国庫補助対象の放課後児童クラブ13箇所への事業委託。 【評価内容】 現状の放課後児童クラブのニーズへの対応は十分ではないと考えられる。 施設の確保、指導者育成の面からの支援を拡充する必要がある。	継続	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番18に記入	重複する為廃止